

1. 主題構成表

主題名 正しいことは思い切って

資料名 「あと、ひとこと」

出典 「みんなのどうとく」学習研究社

内容項目 1 - (4)

- 正しいと思うことは、勇気をもって行う。

児童の実態

- 自分の考えで決められなかったり、主張の強い児童に流されて追従したり、はっきりいやだと断れなかったりする姿が見られる。
- 客観的に考えれば正しく判断できることでも、自分のことになると、正しく判断できないことがある。
- どんなことをするとどうなるのかという予測がうまくできない。

意識の要因

- 友だちや周囲の人の反応が気になっている。
- 自分が言っても聞いてもらえないからと初めからあきらめてしまっている。
- 遊びなどに夢中になると、考えることができなくなってしまう。
- 自分には甘く、人には厳しい。
- 生活経験が少ない。

価値の分析

- 真の勇気とは不正を憎む心、そしてそれを行動に移せる心の強さである。人が社会生活を営む中でよりよく生きる態度で生活するためには、勇気あること切である。しかし現実の社会生活の中ではこうすることが正しいと思っても人は出会う様々な課題に対して自分のまわりの条件や利害関係、様々な誘惑によって行動が左右されてしまうことが多い。だから、分かっているけれども行動に移せなかったり、ついやってしまったりしていることで生活の中でよく起きているのである。この時期の児童は物事に対して自分なりの判断ができるようになり、徐々に自分や他人の言動を見つめることができるようになってきている。それで、正しいことと正しくないことの判断はそれほど難しくないと考える。そこで、望ましい人間関係を維持し発展させていくために、正しきことと正しくないことを見極め、誘惑や利害に負けずとす態度を育てることをねらいとする。

資料の分析

- 木下君は、一緒に遊んでいた黒田君と中山君に「ぼうけんごっこ」をしないかと誘われる。隣の家の塀の上を歩くことは、家の人に止められていることもあり、悩みながらも断った。しかし、2人から言われた言葉が気になって1人思い悩みながら家へ帰った。玄関に入るとお母さんから2人が大けがをしたことを知らされる。木下君は遊んでいたときのことを母親に話さず、自分の足りなかったことに気づいていくという内容である。友だちや周囲の人の反応が気になって、正しいことと正しくないことでもそれを主張できない生活の中でよくあることであり、木下君の心情に共感できると同時に、自分の生活経験と照らし合わせながら考えやすい資料である。指導にあたっては「ぼうけんごっこ」を断った木下君の心情を考えさせ、かろうじて誘いを断ったものの2人の言動によって心の中では葛藤があったことをつかませる。次に自分とは間違っていないとは思いつつも、2人に言われた言葉が気になり思い悩んでいる木下君の心情に共感させる。そして正しいことを貫き通すことの難しさを感じ取らせたい。最後に母親が言った、「少し足りなかったわね」という言葉をヒントに、価値に迫っていきたい。

ねらい

- 友だちの誘いを断ったり、母親と話をしたりしているときの木下君の気持ちを考えることを通して、よいことや正しいと思うことは、勇気をもって行おうとする態度を育てる。

展開の構想

- 間違ったことに対して、勇気をもって正しい友だちについて話し合う。
- 資料「あと、ひとこと」を読み、木下君の心の迷いを中心に話し合う。
- 自分たちの生活を振り返り、正しいと思ったことをすることができた経験、できなかった経験を発表する。
- 教師の説話を聞き、勇気をもって行動することの大切さをまとめる。

基本発問(中心発問)

黒田君のさそいに、木下君はどんなことを思っただろう。
石ころをけとばしたり、たんぼぼの葉っぱをむしったりしているとき、木下君はどんな気持ちだっただろう。
黒田君と中山君が、大けがをした話を聞いて、木下君はどんなことを考えただろう。
お母さんが言った「少し足りなかったこと」とは、どんなことでしょう。

2. 授業の展開

段階	学習活動（基本発問と予想される児童の反応）	支 援 ・ 留 意 点
つ か む	<p>(1) 間違っただけに対して、勇気をもって行動した経験について話し合う。 今までの生活の中で、自分が正しいと思ったことで実行できたことにはどんなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 廊下を走っている人に注意した。 教室の中でボール遊びをしていたので注意した。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違っただけに対して、何とかしようと思った経験を発表させ、価値への方向付けに役立てる。 そのときの行動の結果などについては深入りしないで、話し合いの構えをもたせる。
深 め る	<p>(2) 資料「あと、ひとこと」を読んで木下君の心の迷いを中心に話し合う。 黒田君の誘いに、木下君はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> よくないことだ。 やってみたいな、おもしろそうだ。 家の人に知られなければいいかも。 <p>石ころをけとばしたり、たんぼぼの葉っぱをむしったりしているとき、木下君はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 断ったからもう遊んでももらえない。 ぼくだってそのくらいできるんだ。 もっとはっきり断ればよかった。 <p>黒田君と中山君が大けがをしたと聞いて、木下君はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>ア いけないことをしたから仕方ない。 イ 自分はやらなくてよかった。 ウ けがはひどいのかな。かわいそう。 エ はっきり注意して、やめさせればよかった。</p> <p>お母さんが言った「少し足りなかったこと」とは、どんなことでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 危ないことだと注意すること。 はっきり注意してやめさせること。 正しいことをはっきりと言える勇気。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせによって資料を提示する。 木下君の気持ちを考えながら聞かせる。 かろうじて誘いを断ったものの、心の中では葛藤があったことをつかませる。 <ul style="list-style-type: none"> 正しいことをしたと思いつつも、2人から言われた言葉が気になり、揺れ動く木下君の気持ちに共感させる。 正しいことを貫き通すことの難しさを感じ取らせたい。 <ul style="list-style-type: none"> 小さい声ながら断ってよかったという小さな勇気から、2人を止めてやらせない方がよかったという大きな勇気に至る葛藤をつかませたい。 <ul style="list-style-type: none"> 2人がけがをしたという事実から、木下君と2人の関わりを振り返らせ木下君に足りなかったことを気づかせる。
見 つ め る	<p>(3) 自分のあるべき姿を思い描く。 今まではできなかったけど、もし同じようなことが起きたら、こんなふうにやりたいなあということを書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今度からはきまりを守っていない人がいたら注意する。 今まではいやなことでも断れなかったけど今度からははっきりと断りたい。 <p>書いたものを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理想の姿を思い描くことで、現実の自分とよりよく生きたいと願う自分に気づかせる。 発表を聞く中で実践への意欲を高めたい。